

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク日吉本町開善保育園
経営主体(法人等)	日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒223-0062 横浜市港北区日吉本町2-46-11
設立年月日	平成 17年4月1日
評価実施期間	平成24年11月 ~ 25年 3月
公表年月	平成25年 7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特色】</p> <p>1. 概要と立地 アスク日吉開善保育園は、平成17年4月、(株)前進会が開園し、平成20年に(株)日本保育サービスが経営を継承して現在に至る。園舎建物は3階建てで、延べ面積は393,21㎡、定員140名であるが、待機児童を多く受け入れ、平成24年4月現在155名の子どもたちが通う大規模園である。横浜市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅から徒歩5分で、食料・日用品主体の商店街も近く、戸建住宅、大手法人家族寮などに囲まれているが、地域全体が閑静な住宅地を構成している。</p> <p>2. 多様なプログラム 設置法人から毎週1回 体操、リトミック、英語の専門講師の派遣を受け、子どもたちは、身体、音楽リズム、英語と、様々な表現体験を行っている。加えて5歳児は全員が毎週木曜日にヴァイオリンを練習し、2月の生活発表会には演奏発表を行っている。 また、開設時よりモンテッソーリ教育を導入し、子どもたちが自分の好みの教材を自発的に選んでチャレンジする「おしごとの時間」を設けている。子どもたちは様々な教材に楽しく取り組んでおり、保護者からも好評を得ている。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 子どもたちが活動の合間を楽しく過ごす工夫 職員は日頃から指人形を使った歌や手遊び、パネルシアターなどを学び、日常的に活動の合間に取り入れている。食事前には、職員が配膳している間に他の職員が子どもたちを保育室の一角に集め、手遊び歌や手作り紙芝居で落ち着いて過ごす時間を作っている。子どもたちは、職員と一緒に歌いながら手遊びをまねたり、紙芝居の仕掛けをめくって楽しむなど、活動と活動の合間のひとときを楽しんでいる。</p> <p>2. 保護者会組織との協働 開設まもなく保護者組織ができ、現在まで園と保護者とのパイプ役機能を果たしている。年1回保護者会独自で家族アンケートを実施し、保護者の意見や要望をまとめて園に提示し、園や設置法人は運営方針や回答を全保護者に文書で配付し、改善に努めている。 また、会の「おさがり会」実施の際は、園にリサイクル衣類回収ボックスを設けて協力している。会はその販売で得た収益金を園に寄付し、園ではパネルシアターやモンテッソーリ教育教具などの</p>	

備品を購入しており、子どもたちの日常の楽しみとして活用されている。

3. 子どもたちの社会性を育む近隣との繋がり

園から商店街が近く、散歩の途中で商店や近隣の住民と挨拶を交わし、商店では季節の野菜や魚の名前を教えてもらっている。夏祭りには、老人会を招待するほか地域にポスターを貼らせてもらって参加を誘っている。子どもたちが製作したみこしをかついで商店街を練り歩き、掛け声や拍手の応援を貰ったり、ハロウィンでは事前に預けておいたお菓子を配ってもらうなど、地域の協力で行事を行っている。勤労感謝の日には子どもたちの発案で、お世話になっている商店にお礼状を作成して届けるなど、様々な交流を通して、子どもたちの社会性を育てている。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 積極的な園外散歩の取り入れ

小さい子どもたちは園の周辺を回るなどの散歩を日常的に取り入れていますが、それ以外のクラスでは、散歩については週1回程度に留まっています。園庭や屋上での外遊びは、全クラスで毎日行われていますが、散歩では、季節の移り変わりを楽しんだり、広い公園で駆け回る、地域の方と交流するなど、園外ならではの体験も多くあります。保護者意見でも、鯛ヶ崎公園プレイパークへの散歩が減って残念との意見もありましたので、日常的に園外散歩を取り入れることが望まれます。

2. さらなるコーナーの充実

今年度の職務分担にコーナー保育係を設け、各保育室のコーナーの充実に向けて取り組んでいます。一部のクラスでは、手作りのキャスター付き家具を配置したり、机を配置して切り紙遊びや折り紙、おもちゃを使った遊びのコーナーがつけられています。それらを他のクラスにも広め、子どもたちが様々なおもちゃを使って集中して遊びに取り組めるようなコーナーの充実が期待されます。

3. 玄関出入口の改善

毎年保護者からの意見にあるように、門扉から子どもたちの靴箱までの出入り口が靴を脱ぐのか履いたままで良いのか判断しにくく徹底していないため、雨の日は特に汚れがひどく、保護者も改善を望んでいます。広くスノコを敷きつめてありますが、夏は蚊も発生するとの意見もありますので、対策が望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・ 保育理念「子どもには情熱をもってその心を観察し、創意工夫して優美に接しましょう」、基本方針「子どもの自ら伸びようとする力・後伸びする力・五感で感じる保育の充実を目指す」、園目標「健康な体をつくる・友達や保育士とのかかわりの中で豊かな心を育てる」を定め、いずれも子どもを尊重したものとなっている。
- ・ 子どもの自尊心を傷つけるような対応をしないことを、職員会議などで話し合い全職員が理解している。
- ・ 子どもから訴えたいことや、プライバシーを守れる場所として、多目的室や事務所、職員室を利用することができる。
- ・ 保護者へは入園時に「入園のご案内」を用いて個人情報の取り扱いについて説明し、ホームページや園内での子どもの写真の掲示については、書面で有無を聞いている。
- ・ 職員は「男だから」「女だから」の言動はせず、遊びや行事の役割、並ぶ順序やグループ分けなどで性別による区別をしていない。
- ・ 子どもたちは「ごっこ遊び」での役割などは自由に選び、グループ分けは子

	<p>どもの自主性に任せ、色紙など好きな色を選んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがおもらしをした時は、他の子どもたちが気づかないように速やかに処理し、プライドが傷つくことがないように配慮している・職員は子どもに対して上から見下ろすような姿勢ではなく、目線を合わせて、優しく語りかけている。忙しいときに話しかけられても、職員は無視したり制止したりせず、子どもの話をまず聞いて答えている。子どもの要件の受容に努めていて、制止などはしていなかった。職員間で子どもへの対応で気が付くことがあれば、お互いに注意し合うこととしている。 ・子どもと一対一で話したいときやプライバシーに配慮が必要な時は使っていない保育室や廊下、事務室を利用している。 ・守秘義務については、全職員入社時に研修を受けている。園長会議で議題に上がったことで必要なことは、その後職員会議・リーダー会議で知らせている。 ・個人情報の取り扱いについては、ホームページへの子どもの写真掲載の可否や、園だよりへの名前記入はフルネームにしないなどを入園時の説明会で保護者に説明し、「家庭調査票」に確認サインをしてもらっている。 ・個人情報が記録してある書類、ファイル類は事務室に施錠保管し、原則園外持ち出しは禁止している。個人情報に関わるものの処分は全て、細かく裁断して処理している。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児未満について、毎月個別指導計画を作成し、一人ひとりの子どもの成長に見合った保育を実施している。幼児の要配慮児についても職員会議で話し合い、個別指導計画を作成している。 ・乳児クラスでは低い棚におもちゃ類、布製ぬいぐるみ・ボール、絵本があり、子どもが手にとりやすくなっている。幼児クラスでは低い棚や箱の中におもちゃ類、画用紙、クレヨン、ビーズ等の教材が収納され自由に取り出して遊べるようにしている。保育室には自由に使える教材・クレヨン・廃材等用意され、壁や廊下に子ども達の書いた絵や作品が飾られている。絵本は絵本ラックにあり好きな絵本を取り出している。 ・年齢・発達状況に応じて「表現」の年間保育計画をたて、日常保育の中で自由に表現できるよう配慮している。クラスごとに「今月のうた」を決め、季節に合った歌を皆で楽しんでいる。 ・食事は盛り付けの量や好みを考慮しながら、完食の喜びを味わえられるように配慮している。食の細かい子どもや苦手なものを食べる時には自分で食べようとする意欲を大切にしながら「一口チャレンジしてみよう」「よく食べたね」などの声掛けをしている。 ・年齢に応じた当番活動やクッキング保育を通し、食に対する関心と感謝を育むようにしている。 ・乳児の排泄については日々の子どもの状態を観察し、一人ひとりのリズムをつかみ、個別対応している。トイレトレーニングは家庭と密に連携を取りながら無理のないように進めている。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育運営理念は「お子様にとっていつまでも思い出に残る保育を」「利用者(お子様・保護者ともに)のニーズにあったサービスを提供」などを、園目標は「心も体も元気な子」を掲げて利用者本人を尊重したものとなっている。 ・年度初めの職員会議で法人理念・園目標について説明し、全職員は理解している。基本方針は園舎玄関に掲示し、保護者にも目にとまるようにしている。 ・入園前に保護者と面接し、家庭状況・子どもの成育歴・家庭での状況などを聞き、同時に子どもの様子の観察を行っている。 ・聞き取り把握した内容は所定の用紙に記載し、入園後の日常保育の参考にしている。その記録は個人情報として事務所に施錠保管している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児は毎日連絡帳により園での状況、家庭での状況を連絡し合っている。 ・毎月作成する月間指導計画は、月末終了時に月間の反省・評価・見直しを行い、その結果を翌月の指導計画に反映させている。日常の保護者との会話で把握する保護者の意向も反映させている。 ・保育室内外は清掃が行き届き清潔に保たれ、空気清浄器・加湿器・除湿器を備え、室内温度は午前・午後各1回確認して記録・管理している。 ・各保育室とも窓からの採光は豊かで明るく、園内は職員の声も静かで、音楽も騒音にならないように配慮している。 ・健康管理マニュアルに基づき、毎朝登園時に保護者から健康状態を聞き、一人ひとりの健康状態を把握、確認している。保育中体調が悪くなった時は、熱が37.5度をめやすに保護者に連絡し、様子をみて具合が悪そうだったり、38度を超えると迎えに来てもらうようにしている。 ・嘱託医による健康診断は年2回、歯科健診は年1回行い「児童健康調査票」に記録し個人ファイルに綴じて保管してある。乳児クラスは系列園の看護師が、毎月の成長のグラフを作り、記録している。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則毎週火曜日開催される設置法人の園長会、及び3か月に1度開催される港北区の園長会に出席し、地域支援についての検討・情報交換を行っている。 ・自治会には加入しているが、設立1年目であり、地域との交流・相談事業や支援サービス・地域住民に向けての講習会開催には至っていない。 ・設置法人や横浜市のホームページに保育園の紹介を載せ、NPO法人びーのびーの発行の子育て情報誌「幼稚園・保育園ガイド」に園情報を掲載している。 ・行政関係機関、学校、病院等必要な関係機関や地域団体をリスト化して、事務所に掲示してある。 ・運動会は駒林小学校の体育館を借りて行い、近隣にも案内をしたが、保護者家族以外は来ていない。 ・日常の散歩で、近隣の方々と挨拶を交わし、また、港北区プレイパークでは、遊びに来ている人たちとも触れ合っている。 ・駒林小学校や近隣姉妹園の運動会見学に行ったりして交流を図っている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人に関わる経営・運営状況は法人ホームページに詳細に公開している。 ・園での重要な意思決定については、園長は保護者に文書で説明するなど、保護者の意向も十分に聞く配慮を行っている。 ・年度初めの職員会議で法人理念・園目標などについて説明し、全職員は理解している。なお、基本方針は園舎玄関入口に掲示して、職員にも保護者にも目にとまるようにしている。 ・玄関に第三者委員の氏名・連絡先を掲示して保護者に知らせており、第三者委員とは必要に応じて一緒に対応できる状況にある。 ・保護者からの苦情・要望については、意見箱の設置、懇談会や日々の挨拶時などで意見要望の吸収を心がけ、行事ごとのアンケートで保護者の思いを把握し、アンケート結果は園だよりでフィードバックしている。 ・送迎時に努めて保護者と会話をし、担任が居ない場合でも子どもの様子を伝えられるように、昼礼での打ち合わせで伝達したり、遅番との引き継ぎには「申し送り帳」を使うほか、口頭でも行っている。 ・個人面談は年に一度実施し、保護者の希望があればいつでも受け付けている。 ・園だよりは2か月に一度、クラスだよりは毎月発行配付している。設置法人からはリトミック・体操・英語・保健・食農便りが毎月発行され保護者に情報提供をしている。 ・1年に1回保育参観週間を設けているが、開催期間以外でも希望があれば随時受け付けている。

6.職員の資質向上の促進


- ・設置法人の人材育成ビジョンがあり、保育士の経験年数別に保育士としての習得項目の幅と深さが増すビジョンとなっている。
- ・設置法人本部では年間研修プログラムを、階層別研修、自由研修の2体系で策定し、それを各園に連絡して、職員の受講を進めている。この受講は正規職員・非正規職員の区分はなく、誰でも受講できる。祖の研修プログラムの中から、年度初めの園長・職員面接の中で職員本人の年間研修計画を策定し、年度途中および年度末面接時にその目標の進捗状況をチェックしている。
- ・横浜市等の外部研修の他、法人内エリア別に研修課題を決めて、職員対象のエリア内研修（手作りおもちゃその他）も行われている。
- ・研修を受講した職員は、レポートを園長に提出し、レポートは職員会議で発表または職員に回覧し、受講しなかった職員に内容を知らせている。
- ・園内での研修では、エリア内研修参加者から、手作りおもちゃの手ほどきなどを受けている。
- ・月間指導計画、週案、保育日誌に保育を振り返り、反省・評価する仕組みがあるので、常に反省・評価を行い、次週・次月の指導計画に反映させている。振り返りによる評価反省は、当初意図した計画との関連で行われている。
- ・振り返りは子どもの成長に基づく活動・行動の変化も注視し、子ども本意をベースに行っている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念「子どもには情熱をもってその心を観察し、創意工夫して優美に接しましょう」、基本方針「子どもの自ら伸びようとする力・後伸びする力・五感で感じる保育の充実を目指す」、園目標「健康な体をつくる・友達や保育士とのかかわりの中で豊かな心を育てる」を定め、いずれも子どもを尊重したものとなっている。 ・基本方針や保育理念について、入職時と毎年度初めの職員会議で園長が説明し、職員の理解を深めている。保育理念、園目標は事務所横の掲示板に掲示し、基本方針、園目標に基づいて日々のサービスを提供している。 ・保育課程は、子どもの最善の利益を子どもの幸せ・成長の支援とし、地域環境・地域実態・保護者の就労実態、地域行事への参加、近隣公園の活用などを踏まえ、前年度の反省をもとにクラス単位で原案を作成し、職員会議で決定している。 ・保護者へは、入園説明会、年度初めの保護者懇談会・クラス懇談会で保育課程を説明し、改定時は園内掲示や園だよりで伝えている。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画・月間指導計画・週案を作成している。 ・指導計画は、子どもたちの自主性、主体性を育てる内容となっており、子どもの行動や表情を観察して意思をくみ取り、子どもの発想や意見を反映して、柔軟に対応できる計画になっている。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園前に園長・主任・クラスリーダーが保護者と子どもの面接を行い、子どもの表情や心身の発達の様子を観察している。
- ・面接では、生育歴や家庭状況、心配事などを聞き、児童健康調査票、お子様の状況についてなどの書類を提出してもらい、面接シートに記録して事務所入り口の書庫に保管し、全職員が必要に応じて閲覧し、日常の保育に活かしている。
- ・ならし保育は、子どもの様子や集団行動の経験、保護者の希望などを考慮して、柔軟に対応している。
- ・0、1歳児はならし保育での様子を見て、相性の良い職員を主担当保育者としている。
- ・新入園児の保護者には、園での子どもの様子をお迎え時に必ず口頭で伝え、家での様子も聞いて情報を交換し、保護者の不安に答えている。
- ・在園児への配慮として、複数担任制のため1歳児はならし保育中は新入園児と在園児とを分けて保育したり、進級時は職員1名を持ちあがりとしている。
- ・月間指導計画、週案は、子どもの発達や状況を踏まえ、クラスで前月または前週の評価・反省をもとに作成し、園長・主任の確認を得ている。
- ・連絡ノートや送迎時に把握した保護者の意向や保護者組織が行う年1回の園への意見要望のアンケートを指導計画の見直しに反映させている。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・衛生管理マニュアルに基づいて清掃し、清掃チェック表を活用して、園舎内外を清潔に保っている。
- ・子どもの活動の様子で窓を開閉して適宜換気を行い、24時間換気システム、空気清浄機、布団敷きや午睡後の窓の開放などで、室内の空気を清浄に保つように配慮している。
- ・各室に温湿度計を設置して温湿度を管理し、各室ともテラスに面して採光は十分である。
- ・職員間の声の大きさなどはお互いに注意し合ったり、ミーティングなどで話し合っている。
- ・1階に沐浴設備2か所と温水シャワーがあり、通常の浴槽とよごれで使用する浴槽を使い分け、使用後はその都度清掃し、清潔を保っている。
- ・0～2歳児クラスは、敷きものでコーナーを設けて大まかに静と動の遊びを分けるほか、常時クラスを低い棚で仕切って、食事と睡眠の場に利用している。高年齢児クラスは、可動式の背の低い棚を活用して食事と睡眠の場所を分けている。
- ・多目的室が幼児の異年齢交流の場となっている。遊びによっては、他のクラスを行き来し、異年齢で交流している。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児全員と幼児で課題のある子どもについては、個別指導計画を立てている。
- ・個別指導計画は毎月見直すほか、毎週週案作成時にクラスで検討し、子どもの成長・発達状況によって随時見直し、その結果は職員会議やリーダー会議を通して全職員が周知し、重要な点は保護者に説明して進めている。
- ・子どもたちの成長記録は、児童票、歯科健康診査票、健康調査票に記録し、職員は必要時にいつでも見ることができる。
- ・個別の申し送り事項は、児童票を基に進級時にクラスリーダー間で行い、クラス担任が決定後、クラス毎に共有している。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもの個別ケースについて職員会議で話し合い、全職員に周知するほか、臨床心理アドバイザーの巡回相談での助言を得て、相談シートに記録している。
- ・園長と担任が横浜市総合リハビリセンターを見学し、センター職員と環境や子どもの様子を共有している。
- ・障がい児の日々の様子を記録し、特性に応じた個別指導計画を作成している。
- ・職員は他の子どもたちに「できないことは応援してね」などと声かけし、子どもたちは障がい児を仲間として受け入れている。
- ・虐待対応マニュアルがあり、受け入れや着がえの時に異状がないかを観察している。保護者が悩みごとを言いだしやすい雰囲気を作り、見守っていることをさりげなく伝え、虐待予防に努めている。虐待が明白になった場合や見守りが必要な場合は北部児童相談所と連携し、経過を記録している。
- ・アレルギーについて、職員は看護師による研修を受け、担任と看護師、栄養士が保護者と面談して連携を密にし、かかりつけ医の指示書に従い、対応している。
- ・アレルギー児一欄表を作成して提供時はトレイの色を変えて名前を明記し、複数職員で間違いがないか確認している。
- ・幼児クラスは、外国籍の子どもの国の国旗を教えたり、国によって肌の色や衣服の習慣に違いがあることを話している。

評価分類


I-6 苦情解決体制



評価の理由（コメント）

- ・苦情相談窓口と港北区福祉保健センター、第三者委員2名の連絡先電話番号を園内に掲示し、入園説明会で保護者に説明している。
- ・保護者からアンケートをとったり、ご意見箱を設置して、保護者意見の把握に努めており、回答を、掲示して保護者に知らせた例がある。
- ・要望・苦情対応や、第三者委員を交えて対応する仕組みについて業務マニュアルに記載されている。
- ・園単独で解決できない場合は、設置法人企画担当が窓口となり、港北区福祉保健センターこども家庭支援課などとの連携体制を取ることにしている。
- ・保護者からの意見要望はクレーム受理表に記載して、職員会議やリーダー会議で討議し、また、保護者会アンケートのQ&Aはファイルに保存して、職員で共有し運営に活かしている。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容〔遊び〕</p> 	<ul style="list-style-type: none">・0、1歳児は、子どもの意向を汲んで2種類以上のおもちゃを職員が出し、2～5歳児クラスは、低い棚に電車・車・積木・粘土などを置き、自由に取り出して遊べるようにしている。キッチンやおままごと道具、折り紙やアイクリップを使ったり、自由に絵を描いたり、体を動かして遊べるように机を複数置くなど、年齢や発達に応じた環境構成に配慮している。3～5歳児は、週に数回「おしごと」の時間を設け、主体的に自分の好きな課題に落ち着いて取り組めるようにしている。・年齢に応じてルールを守る大切さを説明し、しっぽとりゲームやおにごっこをしたり、年長児は自分たちでリレーのルールを決めて遊んでいる。・プランターでムスカリやチューリップ、オクラ、ゴーヤなど栽培し、野菜はスタンプングに利用している。また、カブトムシやカタツムリを観察したり、金魚を飼育している。・散歩の途中で商店や近隣の住民と挨拶を交わすなど、地域との交流を図っている。・英語やバイオリン、体操プログラムなどで体を動かすことや音楽に親しんでいる。・幼児クラスでは廃材を集めて思い思いに製作し、5歳児クラスはハサミやのり、鉛筆を自由に使えるように用意している。・職員は小さい子どものケンカでも、必ず理由があることを受け止め、仲介したり納得いくように説明している。・戸外活動は園庭や屋上での遊びが中心で、散歩先は年齢に応じて運動能力を高めたり、自然に触れるなどの活動目的で選んでいる。・園庭にアスレチックを設置したり、室内では跳び箱、マット、平均台などを利用して、運動能力を高める工夫をしている。

II-1 保育内容[生活]



- ・園長は子どもにとって食事は楽しいものあって欲しいと願い、職員に伝えている。子どもの食べる量を把握して、少食の子どもには配膳前に量を減らし、完食の喜びや自信が持てるよう配慮している。
- ・授乳については登園時に保護者と話し合い、量や時間は子どものペースを見て与えている。離乳食の提供については、保護者と栄養士・担任が連携して進めている。
- ・乳児が手づかみで食べることも子どもの意欲として認めながら、年齢に応じてスプーンを使えるように支援している。
- ・月1回のクッキング保育では、様々な食材に触れたり、食事やその準備過程にも関心をもつよう工夫している。
- ・ひな祭りや子どもの日、ハロウィンランチなどの行事食を月1回提供している。天気の良い季節には屋外で給食を食べることもある。
- ・午睡前は絵本や紙芝居を読んだり、乳児クラスではオルゴールをかけ、優しく体を触って、自然と入眠できるように配慮している。
- ・乳幼児突然死症候群対策として、うつ伏せ寝を防止し、0歳児は5分おき、1歳児は10分おきに呼吸と胸の動きをチェックし、乳児保育日誌に記録している。
- ・年長児は就学準備として、年明けから一斉午睡は取りやめ、多目的室で過ごすようにしている。
- ・乳児は排泄チェック表に排泄状況を記録し、連絡ノートで保護者に伝え、トイレトレーニングは、保護者と密接な連携の基に自立を支援している。排便に異常が見られた時は、実物を保管しておき、降園時に保護者に見せて確認してもらっている。3歳以上は個人差を尊重して対応している。
- ・子どもがおもらしをした時は、他の子どもたちが気づかないように速やかに処理し、プライドを傷つけないよう配慮している。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・業務マニュアルに身体測定、健康診断、ぎょう虫・尿検査などの項目が記載されており、マニュアルに基づいて子どもの健康状態を把握している。入園時の健康調査票のほか、既往症、予防接種の有無、毎月の健康診断結果が記載された個人ファイルを看護師が作成し、職員は閲覧可能となっており、周知している。
- ・保育中の発症やケガなどは、状況によっては直ちに保護者に連絡を取り、医師や看護師の助言や提案を、お迎えの保護者に伝えている。
- ・健康診断、歯科健診の記録は個別ファイルに記載している。健診前に、保護者にアンケートで子どもの気になる点を聞き、看護師が園医へ質問をして、その結果を保護者へ伝えている。
- ・感染症マニュアルにより、感染症の特徴、潜伏期間、登園の可・不可、治癒証明の要・不要の一覧表を「入園のご案内」に明記し、保護者へ入園時に説明をしている。
- ・園医などから得た近隣の感染症発症の最新情報は、朝礼、昼礼、職員会議で全職員に周知している。看護師が罹患状況や病気の説明、注意事項を記載した「お知らせ」を、目に留まりやすい玄関の掲示板上に掲示している。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルがあり、各園の意見を持ち寄り、必要時設置法人で改定している。改定時は、園長が園に持ち帰り、職員に改定部分を説明している。
- ・各クラスにマニュアルを常備し、必要に応じて職員は読み返し、確認が可能である。年度初めには看護師が衛生管理マニュアルの研修を実施している。
- ・保育室、寝具、おもちゃなどはマニュアルに基づいて清掃・消毒を行っている。清掃チェック表を作成し、日付ごとに清掃者の記名がなされているほか、0、1歳児が手に取るおもちゃすべてを、毎日消毒液を浸した布で拭いている。



Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]




- ・安全管理マニュアルがあり、ロッカーの下に滑り止めを敷いたり、コーナーはクッション材で保護し、転倒の危険のある家具は天井との間にストッパーを挿むなど転倒防止策を講じている。
- ・月に一度、防災訓練を実施しており、歩いて数分の一時避難場所である駒林小学校まで歩いて行っている。
- ・近隣の医療機関、消防署、警察などへの連絡一覧表を事務室内に掲示し、病気、事故発生時の緊急連絡フローチャートも掲示している。緊急連絡先一覧表を作成し、また、保護者に園の緊急時用携帯電話に携帯番号、メールアドレスを登録してもらっている。
- ・ケガの時は、軽症と判断した場合でも保護者に電話連絡して、お迎え時口頭で説明している。
- ・ケガや事故はまず職員に口頭で伝え、申し送りノートに記録して全職員が把握できるようにし、アクシデント・トラブルノートやインシデントノートに記録して原因、対応を検討し再発防止に取り組んでいる。
- ・門扉は職員・保護者所持のICカードでのみ開錠でき、外部の者は侵入できないようにしている。また、不審者侵入時の合言葉を決めている。
- ・不審者に対する緊急連絡体制として近隣の交番、警察署と連携が取れているほか、「港北AAA」をFAX受信して情報を得ている。
- ・職員13人が赤十字幼児安全法支援員の資格をを取得している。


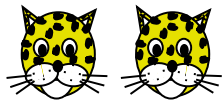
評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は子どもの目線で、ゆっくりとはっきりした言葉で子どもに接し、子どもの発する会話や意見を重視して、時間をかけて聞く姿勢を心がけている。 ・子どもの自尊心を傷つけるような対応をしないことを、職員会議などで話し合い、全職員が理解している。 ・子どもが1人になれるスペースとして、大きな柱の陰や低い棚の間などを使う事ができる。 ・子どもの訴えたいことを聞いたり、プライバシーを守れる場所として、多目的室や事務所、職員室を利用することができる。 ・業務マニュアルに個人情報取り扱いの項目があり、守秘義務の意義と目的を入職時に説明し、また、年度初めの研修で全職員に周知している。 ・個人情報は鍵の掛かる保管庫に収納し、児童票、個別指導計画は園内において記入し、園外への持ち出しの禁止が徹底されている。 ・保護者へは入園時に「入園のご案内」を用いて個人情報の取り扱いについて説明し、子どもの写真のホームページへの掲載や園内での掲示については、書面で了解を得ている。 ・職員は、「男だから」「女だから」との言動はせず、遊びや行事の役割、並ぶ順序やグループ分けなどで性別による区別をしていない。 ・子どもたちは「ごっこ遊び」での役割などは自由に選び、グループ分けは子どもの自主性に任せ、色紙など好きな色を選んでいる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念や保育理念は、「入園のご案内」やホームページに明記し、年度初めの懇談会を多くの保護者が参加しやすい土曜日に開催し、保育方針や園目標について説明を行っている。 ・毎月配付する「園だより」「クラスだより」には、クラス目標を記載し、保育方針を伝える努力をしている。 ・保護者との情報交換は、0～2歳児は連絡帳を通して家での様子、園での様子を伝え合っており、3～5歳児については全クラスのその日の様子を玄関掲示板に貼り出すほか、一人一人園での様子を口頭で伝えている。 ・年に3回の全クラス合同の保育懇談会後のクラス懇談会で、子どもの日常的な活動をDVDや写真で紹介している。 ・保護者との個別面談を年に2回行い、保育参観を年2回、2週間実施しているため、その間保護者は子どもの様子をじっくり観ることができる。 ・保護者のイベントには会場の提供や備品を貸し出し、職員が手伝いや相談などにのるなど、コミュニケーションを図っている。毎年、保護者会主催の「おさがり会」の売上金の寄付を受けている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会主導のアンケートはありますが、運営方針の理解度を問う園独自のアンケートは実施していませんので、行事後のアンケートに保育方針への設問を追記するなどの対策が望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談の受け入れをしているが実績は少ないので、そこでの保育ニーズの把握はできていない。 ・港北区園長会議に出席し、地域の子育てニーズについて情報交換している。 ・一時保育や緊急対応で保育を受け入れている。今年度は緊急時保育1名を含む3名を受け入れた。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てグループや自治会を通して保育園に対する要望を把握して、地域ニーズに応える保育の専門性を活かしたサービス提供の検討が望まれます。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉本町町内会の回覧に、夏祭りや音楽会のお知らせを掲載してもらって情報を提供している。また、近隣の商店にも行事のお知らせの掲示をお願いして、地域の人の参加を募っている。 ・育児相談を毎週木曜日に設定しており、玄関の掲示を見て相談に来園した母親の悩みを聞き、丁寧に対応したケースがある。 ・北部児童相談所の担当職員とは、虐待の見守りで日常的に連携を取っており、横浜市総合リハビリセンターとも担当職員が園での様子を見に来たり、クラス担任が相談に行くなどの連携体制がある。



評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りなど園の行事には、第三者委員や老人会を招待するほか、地域の人々にポスターで知らせて誘っている。見学を訪れた人にもお知らせを配布し、気軽に参加できることを伝えている。毎年夏祭りではおみこしを作って商店街を練り歩き、掛け声や拍手の応援をもらい、ハロウィンでは事前に預けておいたお菓子を配ってもらうなど、地域の協力を得て行事を行っている。 ・定期的に中学生の職業体験を受け入れたり、近隣の駒林小学校の運動会に招待されて見学に行ったり、年長児が小学校体験に出かけるなど、地域の学校との連携がある。園の運動会にも小学生プログラムを設け、卒園児や近隣の小学生が参加している。 ・近隣の金蔵寺の境内、鯛ヶ崎公園プレイパーク、商店街に散歩に行っている。商店街では顔なじみになっており、挨拶を交わしたり、季節の野菜や果物の説明を受けたり、行事への協力などで積極的に交流している。勤労感謝の日には子どもたちの発案で、お世話になっている商店にお礼状を作成して届けた。 ・高齢者施設「セレッソ日吉」へハロウィンの仮装で訪問して喜ばれたり、クリスマスには歌を歌い、折り紙を教わって交流している。 <p><コメント・提言></p> <p>園は地域にとって貴重な社会資源です。地域に向けて園を開放したり、絵本など備品の貸し出しの検討が望まれます。</p>

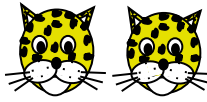


<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパフレット、ホームページ、「入園のご案内」で保育内容、特色などの情報を知らせている。「入園のご案内」には事業内容、一日の流れ、定員、ホームページには一時保育の利用料金などを載せている。 ・地域のNPOびーのびーの発行の幼稚園・保育園情報誌に園情報を掲載している。 ・外部からの問い合わせには園長、主任が随時対応し、問い合わせがあった時は、見学が出来ることも伝えている。入園募集の頃は問い合わせが多く、カレンダーに氏名、連絡先、見学希望日、などを記入し調整にあたった。基本として10時、15時に見学案内をしているが、就労中の保護者には夕方にも対応している。見学時、保育内容や延長保育料の説明をしている。
<p>IV-3 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れマニュアルがあるが、ボランティア活動への対応は不十分である。 ・実習生受け入れマニュアルがあり、受け入れにあたっては職員会議で説明を行い、保護者には「園だより」と掲示板で知らせている。実習生に対しては実習の意義や注意事項を説明している。実習では園長、主任、クラスリーダーが担当となり、学校側の意向も踏まえ、実習プログラムを工夫している。各クラスリーダーが細かいアドバイスと援助を行い、最終的に反省会を兼ねて意見交換の場を設定している。 <p><コメント・提言> ボランティア活動として、近隣の音楽愛好家による音楽会を受け入れました。今後は、マニュアルに基づいて職員や保護者に説明したり、活動後の感想を聞いて園運営に反映させる事が望まれます。</p>

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営に必要な人材構成のチェックや補充は設置法人が行っており、補充の必要性が生じた場合は園長が要請している。 ・人材育成の一環として、新人担当（チューター）制度を導入し、日ごろから新人の相談にのるなどして育成に努めている。 ・設置法人の階層別研修計画があり、新卒と2年目職員は受講必須となっている。自由選択研修も計画されており、常勤・非常勤とも希望により受講できる。外部研修に積極的に参加できるように、案内を事務室に置き、受講を促している。 ・研修受講後はレポートを提出し、職員会議で報告し、クラスに持ち帰って実践している。 ・クラス担任はベテランパート職員と新任職員の組み合わせで、子育て体験や、保育の最新情報などお互いの良い点を学び合える様、シフトに配慮している。 ・職員は年度初めに個別に研修計画を作成し、自己の目標を職員会議で発表している。園長面談で計画の前期を振り返り、後期の見直しを行っている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年第三者評価を受審し、その際に職員一人一人が自己評価を行い、保育サービスや運営の見直しの機会としている。評価結果はホームページで公表し、また、園の玄関に「第三者評価を受けました。報告書の閲覧ご希望の方は申し出てください」のポスターを掲示している。 ・指導計画に評価・反省欄を設けるなど、計画や記録文書は法人で定型化されて、子どもが意欲的に取り組む様子や、主体的な関りを記載している。日誌、週案、月間指導計画の反省、評価欄を記入することで、職員は自己の実践を振り返り、それを踏まえて次期の指導計画に反映させている。 ・各クラスで話し合った振り返りを職員会議で討議し、解決策を講じたり、改善を図っている。反省から課題を提起し改善した例として、モンテソリーの「おしごと」を充実させるための多目的室の利用、3～5歳児の縦割り保育の実施、戸外活動に少人数で出かける、2歳児クラスに、ダンボールで可動性間仕切りを作成した。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人作成の、経験、能力など習熟度に応じた役割についての人材育成計画がある。各クラスにリーダーを決めて現場の判断を任せることや、クラス運営に関してクラス担任の意思を尊重して、最終的に園長が報告を受ける体制がある。 ・職員会議やリーダー会議の席上で職員が自由に提案したり発言できる機会を設けている。 ・年に3回の職員面談では満足度、異動の希望など、要望、意向を聞いている。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則に倫理要綱があり、職員は入職時に研修を受けている。設置法人にコンプライアンス委員会が設けられ、また、不正を弁護士に通報する仕組みがある。 ・設置法人のホームページでは、法人経営・運営面での詳細な情報が開示されている。 ・社会での問題事項やアクシデント事例などが設置法人から報告され、職員はそれに対するレポートを書き、自己啓発している。 ・節電、節水に心がけ、牛乳パック等の廃材を子どもの製作や手作りおもちゃの制作に活用している。保護者から廃材等の回収の協力を得ている。保護者会のお下がり会の回収ボックスを園に置いて、衣服のリサイクルに協力している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園としての環境取り組み方針を明文化して、保護者や地域に示すことが期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念・園目標は園舎内廊下に掲示し、職員や保護者に明示している。 ・園長は、職員会議やリーダー会議、クラス会議で常に基本理念や園目標を具体的に説明し、理解を深まるように指導し、年3回の職員面接の都度、職員の基本理念・園目標についての理解度を確認している。 ・行事などに変更がある時は、職員で話し合うほか、全保護者にアンケートを取るなど、意見交換により決定し、変更点は、書面やクラス懇談会で園長や設置法人の企画担当が出席して経過と結果を丁寧に説明している。 ・園内でクラスを超えて園外保育・パネルシアター・コーナー遊び・園内整備・食育などの検討グループを作り、改善策の検討を行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が事業運営に影響のある情報の収集・分析を行い、それらの情報は、園長会議で報告されたり直接園に送信され、説明の上全員に周知している。 ・園として継続的に検討すべき重点課題は、リーダー会議や職員会議で検討している。今年度は、モンテッソーリ教材の補充やコーナー保育の充実を重点として、改善に取り組んでいる。

利用者家族アンケート

結果の特徴

アンケート回収率 総世帯数130世帯 回収62通 回収率48%

下記のアンケート結果分析に使用する「満足度」は、「満足」と「どちらかといえば満足」回答の合計値を表している。

◇総合満足度

施設に対する総合評価の満足度は92%と高い評価を得ている。

◇満足度の高い項目

- 1) 「活動や遊びについて子どもが満足しているか」は、満足度が96%と高くなっている。
- 2) 「給食」「基本的な生活習慣などの生活面」での満足度は90%を超える高い満足度である。
- 3) 「感染症について」の満足度は92%である。
- 4) 「園だよりなどによる情報提供」「迎えが遅くなる時の柔軟な対応」の満足度は90%以上となっている。
- 5) 「子どもが園生活を楽しんでいるか」は、94%の満足度である。

◇比較的満足度の低い項目

「どちらかといえば不満」「不満」が合わせて20%以上となっているのは、

- 1) 「自然に触れたり、地域に関わる園外活動」「遊びを通じた健康づくり」
 - 2) 「施設設備」「落ち着いて過ごせる雰囲気」「不審者対策」
 - 3) 「送迎時の情報交換」
- となっている。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	3%	58%	21%	16%	2%	0%



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	45%	43%	12%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	43%	31%	5%	0%	16%	5%
	その他: 見学していません。見学がなかった。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	27%	57%	8%	0%	6%	2%
	その他: なかった。					
園の目標や方針についての説明には	16%	66%	5%	3%	8%	2%
	その他: 全く訊かれなかった。					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	34%	51%	8%	2%	3%	2%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	29%	56%	11%	0%	2%	2%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	30%	53%	8%	5%	2%	2%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	17%	66%	13%	0%	2%	2%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	16%	69%	15%	0%	0%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	50%	46%	2%	2%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	40%	40%	13%	5%	2%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	24%	53%	12%	3%	8%	0%
	その他:よくわからない。あまりよく知らないです。					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	29%	45%	13%	8%	5%	0%
	その他:よくわからない。					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	39%	48%	10%	0%	3%	0%
	その他:よくわからない。					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	29%	51%	18%	2%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	64%	31%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	60%	30%	5%	0%	5%	0%
	その他:					

基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	51%	45%	2%	0%	2%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	50%	41%	2%	2%	3%	2%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	34%	32%	11%	0%	15%	8%
	その他:まだ始めていません。					
お子さんの体調への気配りについては	35%	50%	11%	2%	0%	2%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	31%	51%	10%	3%	5%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	6%	52%	26%	14%	2%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	13%	55%	21%	8%	3%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	16%	51%	26%	7%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	34%	58%	6%	2%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	29%	58%	9%	0%	2%	2%
	その他:経験がない。まだ入所して日が浅いためわからない。					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	37%	56%	3%	0%	2%	2%
	その他:					

園の行事の開催日や時間帯への配慮については	45%	42%	9%	0%	2%	2%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	10%	60%	19%	8%	0%	3%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	18%	61%	14%	3%	2%	2%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	19%	61%	13%	5%	0%	2%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	52%	40%	3%	0%	3%	2%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	29%	59%	8%	0%	2%	2%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	50%	44%	2%	0%	2%	2%
	その他:小さいので楽しんでいるか不明。					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	43%	39%	2%	0%	5%	11%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	42%	44%	8%	2%	2%	2%
	その他:人によりばらつく。					
意見や要望への対応については	29%	55%	11%	3%	0%	2%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	31%	61%	8%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスク日吉本町開善保育園

◇0歳児

遊び

子どもたちは、畳やマット、カーペットを敷いて静と動の空間に分けた保育室で、それぞれの遊びを楽しんでいた。自分の好きな本をよちよち歩きで職員に見せている子どもは、読んではとねだっているようだった。カーペットの上では何人かの子ども達が、ハイハイしたり、ごろごろしていた。広い何も敷いていない空間では、何人かの子ども達がぐるぐると駆け回って、体を動かすことを楽しんでいた。

排泄

保育室のすみでは、一人の子が寝ながらオムツを替えてもらっている。一人で立てる子は、立ったままパンツ式のオムツを交換してもらっている。職員にパンツを半分はかせてもらった後は、自分の手で一生懸命上げようと頑張っている。職員はそれを見守りながら少し手助けをしている。パンツがはけると、脱いだパンツを自分でたたもうとしている。褒めてもらっているのか、子どもの笑顔が見えた。

食事

職員はテーブルを消毒してから、遊んでいる子どもを手洗い誘っている。子どもたちは一人ずつ職員に援助してもらいながら自分で手を拭いて、テーブルにつく。抱っこで連れていってもらった子どももいる。手洗いの順番を待っている子には、他の職員が、アンパンマンの手遊び歌を歌い、子どもたちは喜んでまねをして手をたたいて楽しんでいた。月齢に応じてテーブルを分けて座る。配膳を待ちきれず手づかみで食べ始めた子や一人でスプーンやフォークを持って上手に口に運べる子もおり、それぞれのテーブルに職員が一人ずつ座って、子どもの様子を見ながら介助している。

◇1歳児

遊び

まだ日陰に雪が残っているが、保育園の周辺の散歩に出かける。上着を着て、園長先生に行ってきますとあいさつをし、二人で手をつないで出かける。手をつなぐのをしぶる子に、手を差し伸べる子がいて、「ありがとう。〇〇ちゃんが手をつないでくれるんだって、よかったね」と双方の子に声をかけている。子どもは車を見て、「ぶーぶ」と言ったり、掲示物を見て「ワンワン」などと職員に話しかけ、職員はそれに答えている。キンカンの木が見えると、職員が「黄色くなっているね、前はみどりだった」と話しかけると、「オレンジになってる！」「どこ？」「あそこ、見える？」などと会話が弾んでいる。途中寒いと泣きだした子には、「先生と手をつなごうね、暖かい？帰ったら温かいもの飲もうね」と優しく声をかけていた。

食事

職員が配膳している間、手遊び歌を職員のしぐさをまねて楽しんでいる。次に、指人形を使った歌で、職員の「子どもたちはこの指…誰？」の問いに、「ママ、お姉さん、赤ちゃん」などと口々に答えていた。職員はぐずっている子は抱っこしたり、一緒に手をつないで給食を取りに行く手伝いに誘うなど、丁寧に対応していた。

排泄

食事が終わると、職員に「トイレに行く？」と声を掛けられ、トイレに向かう。パンツを自分ではこうして頑張っている子には、「足をいれてごらん、あとはやってあげるからね」と声をかけ、パジャマへの着替えも、着やすいように整えるなど、職員は子どもたちの取り組みやすい仕方で、できるところは自分でやるように促している。

午睡

パジャマに着替えて、自分の布団に行き横になる。布団のところどころに職員が配置され、数人ずつトントンしてもらったり、おなかをなでてもらっている。すぐに寝つく子もいるが、布団の周りを歩いている子は、職員に、「布団どこ？こっち」と言われ、職員の横に寝転がる。職員に優しくトントンしてもらい、落ち着いたようで、静かになった。

◇2歳児

食事

4か所のテーブルに4, 5人ずつ座り、食事をする。献立にサワラが出た。子どもたちは、「何のさかな？」「さんま」「長いよ」「マグロ？」「赤くないよ」「サケ？」「サケはピンク」などと知っている魚の名前を挙げている。一人の子が、そっと調査員に、「魚の皮食べられないの」と教えてくれた。職員も承知していて、残っていても無理強いしなかった。おかわりしたい子には、職員は「おかわりしますか？どれ？」と、好きなおかずを選ばせ、ご飯も少し添えていた。

食後の歯磨き

食事が終わった子から歯磨きを始める。用意してあるトレイから自分の歯ブラシとコップを持って水道場へ行く。職員が水道を使う子に、「水出しっぱなしにしないでね」と注意していると、友だちが出しっぱなしにしている水道の蛇口を自分で閉めている子がおり、ありがとうと声をかけてもらった。自分で磨き終わると職員に仕上げ磨きを頼む。職員は「大きな口で磨きやすいよ、右、左、磨けたよ」などと話しかけながら歯磨きを手伝っていた。

排泄

歯磨きが終わると、職員に「トイレはどう？」と言われ、「出ない」と答えている子どもに「行ってみて出なかったらいいよ」と言いながら、トイレに誘っていた。紙パンツの子もトイレに行き、マットが敷かれた場所で着替えを始める。脱いだ衣類をクシャクシャのまま袋にしまおうとしている子には、「畳んだ方が入れやすいよ」と言いいながら袖を半分ずつ畳むことを教えたり、着替えに手間取っている子には、「できるところまでやってごらん」とサポートしていた。

◇3歳児

食事

4, 5人ずつグループ分けしている。おかずは一皿盛りで、全員箸を使用している。職員のお皿ピカピカにしようね」の声掛けに「はい」と大きな声で返事をする。

「もうすぐ桜組に行くんだよ」「春になったらね」「うん」と4月に進級する桜組の部屋を指差し、調査員に教えてくれた。「そのあと菖蒲組だよ」「えー」「びっくり」と年長へのあこがれで話は弾んでいる。

アレルギー食の子どもはトレイの色とメニューが多少違っているが、それぞれおしゃべりに忙しかったり、ニコニコと時々あいづちを打ったり、黙々と食事を続けたりと、どの子どもも特に気にしている様子は見られない。

排泄

食事後、2, 3人が職員の耳元に声を掛け、保育室の前にあるトイレへと入っていく。トイレは3~5歳児共用で、ドアつきで大きい子どもへの羞恥心に配慮されており、ドアにはそれぞれ子どもが喜ぶような絵を貼っている。

◇4歳児

遊び（園庭）

子ども達はデッキから園庭へと駆けていく。

職員が雪解けの水溜りにシャベルで砂を掛け、地ならしをしていると、数人の子どもが何やら小さな入れ物を見つけ、園庭の乾いた場所から砂を運び「お手伝い、お手伝い」と言いながら繰り返し作業をしている。自ら進んでのお手伝いを楽しんでいる様だった。

他の子どもは、ボール投げ、鉄棒、砂場でおままごと、おにごっこ、など思い思いにやりたい事をやっている。元気に動いて暑くなった子どもは次々に上着を脱ぎ、自分で畳んで、所定の場所に置いていく。

子どもたちは教室に戻ってから手洗い所に集まる。そこには「手洗い歌」「歯磨き順序」が、かわいく描かれたイラストが貼り出され、調査員に「ほら、これ見て。こう、洗うんだよ」と指差し教えてくれた。ある子どもは爪ブラシを用いて洗っていた。

◇5歳児

クッキング保育

クッキング保育でうどん作りの最後に、栄養士から「来月は包丁を使ってフルーツの皮むきがあるから包丁の持ち方を見ていてね。左の指をこう曲げてうどんを押えるのよ」栄養士の手元を子ども達は真剣に見つめていた。

遊び（屋上）

外階段を使って皆で屋上へ行った。まだ雪が残り、たらいの水も氷に変化し、つるつる滑る雪の上でバレエを踊る子、わざと何度も転んで笑い転げる子、ポリコップに雪と氷を入れて「ジュース」と周囲に振舞う子、氷を蹴飛ばして距離を競う子、職員の持つ長縄を十数回

も跳んでいる子、と、子どもたちはいろいろな遊びを見つけて楽しんでいる。
その内、4歳児と同様に、「暑い」と、自分から体温調整を行って上着を脱いで所定の場所に畳んで積み上げ、又走りまわっている子どもが半数以上いた。

食事

4～5人のグループ分けである。調査員が共に食事をすると分かるにあちら、こちらからお誘いの声が掛かる。二人のお当番はお茶とお箸を分担して、渡しもれがないか確認していた。

「いただきます」をすると途端に黙々と箸が進んでいる。しばらくすると子ども達の元気な声が飛び交っていた。聞くと最初に「もぐもぐタイム」を設けているとの事である。20分ほどでほとんどの子どもが完食し、「お皿ピカピカ」であった。

H24 年度第三者評価事業者コメント

(アスク日吉本町開善保育園)

【受審の動機】

昨年、第三者評価を受審し、今までの園運営を振り返ることができ、また今後の課題を見出すためには有効な手段だと感じたので、今年も引き続き受審させていただきました。また、評価機関の選定については、昨年と同じ機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることによってより比較がしやすいと考えました。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。評価の際は、今まで行ってきた保育に加え、昨年度ご指摘いただいたことがどの程度できているかを課題として捉えました。

今年、開設8年目、また運営主体変更後5年目を迎えました。皆様にご理解ご協力いただきましたおかげで、今年は保護者の方々から感謝の言葉を沢山いただく事ができました。今後も常に利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちや保護者に親しまれる園でありたいと考えております。

【受審した結果】

自己評価での個々や自園の見直しは、問題をクリアにしていく上で大変重要であり、新たな気づきが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に「保育」を見直すことで、運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することができました。このことで、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

前年度ご指摘いただいていた実習生、ボランティアについて、今年度は、近隣の専門学校より実習生の受入要請を頂き、受け入れをさせて頂くことができました。

開園以来、初めての受け入れでしたが、受け入れに当たってさまざまな観点で保育を見直すことができ、園として大変貴重な経験の場となりました。

この取り組みを継続し、来年度はボランティアも積極的に受け入れていく所存です。

今後も「利用者が本当に求める保育サービス」を提供していけるよう、職員一丸となって努力してまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。